

令和7年度 事業報告

公益財団法人 日本鳥類保護連盟

令和7年度 事業報告 目次

I. 総括	1
II. 公益目的事業の実施状況	1
1. 鳥類等の保全及び自然愛護精神の普及啓発に関する事業	1
(1) バードピア推進事業	
(2) 企業・自治体・団体の自然豊かな環境作りサポート	
(3) 愛鳥週間関連事業（愛鳥週間 5月10日～5月16日）	
(4) 愛鳥懇話会	
(5) ビジターセンター等施設における解説・管理等	
(6) 巣箱架設行事・活動	
(7) その他教育事業への講師派遣	
(8) 野鳥保護に関するキャンペーン	
(9) イベントによる普及啓発活動	
(10) 普及啓発を目的とした商品の販売	
(11) 子ども鳥博士	
(12) 野鳥を詠む俳句	
2. 鳥類等の保全に向けた調査研究に関する事業	5
(1) 自主調査及び保護研究事業	
(2) 受託事業	
3. 鳥類保護の国際協力に関する事業	8
(1) フィリピンにおける自然保護活動	
(2) 国際サシバサミット	
(3) 日中トキ協力事業	
4. 表彰に関する事業	9
(1) 令和7年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰	
(2) 第59回全国野生生物保護活動発表大会	
5. 連盟の組織運営の基盤となる事業	9
(1) 機関誌『私たちの自然』	
(2) 支部会議の開催	
(3) 支部交流会	

- (4) 支部報
- (5) 日本鳥類保護連盟活動推進ワーキンググループ
- (6) 各種媒体を通じた広報
- (7) 寄附を獲得するための活動

Ⅲ.運営体制の充実を図るための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

令和 7 年度 事業報告

I. 総括

事業の柱である普及啓発・調査研究等公益に資する事業の活性化については、普及啓発活動の増加、調査事業の増加などおおむね達成できた。国際協力事業についてもフィリピンへの NGO 等への支援を継続し成果を得た。

支部との連携強化と活動の活性化については、神奈川県支部との共同による子ども鳥博士の復活などの取組を行った。

ホームページ、SNS などを活用し特に企業、団体への働きかけを強化したが、会員数は減少傾向で成果は上がっていない。一方で SNS のフォロワー数は漸増している。

寄付金、助成金等の獲得については、遺贈寄付やクラウドファンディングなど中小の寄付が継続したことが幸いして実績が伸びており、連盟の収支の改善に貢献した。

なお、金利や物価、人件費の上昇が続いており、これらにあわせるため商品の定価改定、定期預金への切り替え検討、職員の給与引き上げなどの課題に継続して取り組んだ。

II. 公益目的事業の実施状況

1. 鳥類等の保全及び自然愛護精神の普及啓発に関する事業

(1) バードピア推進事業

ホームページ、機関誌のほか、野鳥関連商品やホームセンターと連携した販促物等を通じて、バードピア事業の普及啓発を行った。

既存登録者のうち希望する団体について、SNS やホームページで活動紹介を行うサービスを継続して実施し、登録者の活動支援と情報発信の充実に努めた。令和 7 年度末時点の登録者数は、企業・団体 67 件、個人 222 件となった。

これらの取り組みを通じて、人と野鳥が共生できる環境づくりの促進と地域における野鳥保護活動の推進を図った。

(2) 企業・自治体・団体の自然豊かな環境作りサポート

所有する敷地内の緑地や社有林を活用して自然環境保全活動に貢献したいと考えている企業や団体向けに、生きものが棲みやすい環境作りや社員向けの環境教育・環境学習プログラムを提案している。令和 7 年度は東京スクエアガーデンの低層階エリアにシジュウカラの営巣環境を整えることを目的とした技術提供、アドバイスなどの監修を行った。

(3) 愛鳥週間関連事業（愛鳥週間 5月10日～5月16日）

① 第79回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

令和7年は5月11日(日)に東京都の虎ノ門ヒルズで式典を開催した。式典は常陸宮妃殿下ご臨席のもと、野生生物保護功労者表彰の受賞者とその関係者を招いて執り行った。

② 令和8年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

全国の小・中・高校生を対象に、環境省・文部科学省・林野庁の後援を得て実施した。全国から29,739点の応募があった。この中から各都道府県より推薦された421点を審査し、令和8年度愛鳥週間用ポスターの原画となる総裁賞のほか、環境大臣賞などの入賞作品を選定した。総裁賞の原画をもとに令和8年度愛鳥週間用ポスターを制作し、各都道府県に配布した。

③ 愛鳥週間関連各種普及啓発事業

愛鳥週間における普及啓発事業として、「ぶち楽しいバードウォッチング～きらら浜の新緑と野鳥をたずねて～」(5月11日きらら浜自然観察公園、山口県支部)などの探鳥会、自然観察会、愛鳥週間用ポスター展(山口県支部)、愛鳥写真展及び表彰、双眼鏡や図鑑の貸出(山口県支部)など、各事業を実施した。

④ 愛鳥ポスター及び野鳥写真の展示(岡山県支部)

愛鳥ポスター及び野鳥写真の入賞作品を展示した。

8月5日(月)から8月9日(金) 倉敷市役所

8月20日(火)から8月25日(日) 岡山県生涯学習センター

10月13日(日) 岡山県みどりの大会(おおさ総合センター)

(4) 愛鳥懇話会

12月11日(木)にアークヒルズクラブ(ARK HILLS CLUB)において、常陸宮妃殿下のご臨席を賜り、連盟関係者約50名の参加者とともに愛鳥懇話会を開催した。「令和8年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール総裁賞」「第7回シマフクロウステッカーデザインコンテスト最優秀賞」の各授賞式を執り行い、日本鳥類保護連盟の公益事業の紹介後、立食による懇談を行った。

(5) ビジターセンター等施設における解説・管理等(釧路支部)

釧路湿原国立公園の環境省施設である、温根内ビジターセンターと塘路湖エコミュージアムセンターの管理運営業務を環境省から、また、釧路湿原国立公園自然ふれあい活動業務を釧路湿原国立公園連絡協議会から請負い実施した。専門の職員を4名配置し、施設の維持管理や併設されている遊歩道の管理を行った。季節の自然情報を施設内やSNSなどで情報発信したほか、自然観察会や地域の学校等への環境学習を実施し、ワイズユース(賢明な利用)の理念のもと、普及啓発に努めた。また、各施設周辺の自然情報を発信する目的で、「月刊 温根内通信」と「月刊 やちまなこ」を発行した。

(6) 巣箱架設行事・活動

下記の通り巣箱架けを中心とした自然環境教育事業を行った。児童向けプログラムでは巣箱作り、巣箱架け、巣箱調査を行った。

① 環境省新宿御苑管理事務所との共催事業

11月29日(土)に巣箱調査、12月21日(日)に巣箱作りと巣箱架けをそれぞれ実施した。(参加者:11月29日 25名、12月21日 38名)

② 講師派遣

所沢航空公園(9月15日 46名、11月23日 32名)、麴町小学校ワーク・わく・クラブ(9月27日 40名、3月7日 32名)、まちの保育園(12月24日 22名、1月19日 22名)、明星幼稚園(1月29日 156名)

(7) その他教育行事への講師派遣

① NHK文化センター青山教室「はじめてのバードウォッチング」

10月14日(木)オリエンテーション(於: NHK文化センター青山教室)[受講者 1名]、10月9日(木)新宿御苑[受講者 10名]、11月13日(木)水元公園[受講者 12名]、12月8日(月)オリエンテーション(於: NHK文化センター青山教室)[受講者 3名]、12月12日(金)洗足池[受講者 12名]、1月8日(木)井の頭公園[受講者 15名]、2月12日(木)昭和記念公園[受講者 15名]、3月12日(木)石神井公園[受講者 15名]、4月9日(木)多摩森林科学園[受講者 15名]、5月14日(木)ひので野鳥公園[受講者 15名]

② 科学読物研究会(東京都杉並区)

6月15日(日)「チキンじゃないよハードです」[参加者:27名]

③ まちの保育園(東京都港区)

7月11日(金)「鳥博士と闇夜の探検」[参加者:20名]、7月19日(土)「野鳥マグネットの色塗り教室」[参加者:10名]

④ 板橋区エコポリスセンター(東京都板橋区)

8月7日(木)「エコ素材の野鳥型マグネット作り」[参加者:20名]

⑤ 五本木小学校(東京都目黒区)

10月7日(火)第1学年「あきとあそぼう」[参加者:62名]、第3学年「五本木の森で遊ぼう」[参加者:53名]

⑥ NPO 法人サイン・オーチャー・箱根植木共同事業体(東京都杉並区)

10月19日(日)「科学工作教室」[参加者:10名]

⑦ 麴町小学校 ワーク・わく・クラブ(東京都千代田区)

1月17日(土)「北の丸公園バードウォッチング」[参加者 32名]

⑧ 所沢航空発祥記念館・所沢航空記念公園管理事務所(埼玉県所沢市)

2月8日(日)「鳥のマグネットのペイントに挑戦!」[参加者:10名]

(8) 野鳥保護に関するキャンペーン

①「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

1995年より始まったキャンペーンを4月1日から7月31日までを期間とし、当連盟、(公財)日本野鳥の会、NPO法人野生動物救護獣医師協会3団体の共催及び環境省の後援により実施した。都道府県及び企業・団体の協賛、協力を得て、普及啓発ポスターを3団体で111,500枚作成し、自治体、学校、公共施設、動物病院などに配布した。

② 全国一斉テグス（釣り糸）ひろい 2025

放置された釣り糸や釣り具による野鳥被害を防止するため、海釣りや川釣り等が盛んとなる5月1日から10月31日までの期間、機関誌やホームページ等を通じて重点的に普及啓発を行い、全国でのテグスひろい活動の実施と結果報告を呼びかけた。令和7年度は9地点、延べ156名が参加し、推定7,377m（1g=13m換算）のテグスを回収した。

6月6日（金）には連盟本部主催によるテグスひろい活動を東京都葛西海浜公園で実施した。SNSや機関誌を通じて参加を呼びかけた結果、16名の参加者が集まり、放置されたテグスや釣り針などを回収した。本活動を通じて、釣り糸による野鳥被害や海岸環境問題への理解促進を図ることができた。

(9) イベントによる普及啓発活動

愛鳥思想の普及啓発を目的としてイベントを実施またはイベントに参加した。

- ① ジャパンバードフェスティバル（11月1日(土)2日(日)千葉県我孫子市）
- ② すぎなみサイエンスフェスタ（3月8日(日)杉並区 IMAGINUS（イマジナス））
- ③ 人とみどりと野鳥のつどい（岡山県支部）（4月2(月)岡山県自然保護センター）
- ④ 野鳥写真コンクール（岡山県支部）（7月19日(金)岡山県立図書館）

(10) 普及啓発を目的とした商品の販売

野鳥カレンダー、野鳥シート、バードピンズ及び音声再生録音ペン(G-Speak)などの既存の商品の他、取扱商品の拡充に努めるとともに、オンライン注文充実のため体制を整えた。また、企業とのタイアップによる新商品(ペットボトルフィーダー)におけるリサイクル素材への転換を行った。

昨今の物価高に伴い商品の製作コストが上昇したことから、販売価格の見直しをはじめ、商品の販売規程を一新し、適正価格による商品販売体制を整えた。

(11) 子ども鳥博士

小学生を対象に、野鳥観察や自然体験を通じて野鳥や自然環境への理解を深めることを目的とした「子ども鳥博士」を実施した。本事業は23年ぶりの復活事業として、2月7日に神奈川県小田原市で第1回を開催した。午前中は野外で野鳥観察を行い、午後は室内で観察した鳥の振り返りやクイズ、鳥の体の仕組みなどについて学ぶ講座を実施した。

(12) 野鳥を詠む俳句

野鳥が生息する情景を俳句として詠むことで、野鳥や自然を楽しむ機会を広げることを目的に実施した。令和 7 年度は、機関誌、SNS、公募サイト等を通じて応募を呼びかけた結果、285 名から 777 句の投句があった。投句の中から、(公社) 日本伝統俳句協会と連盟が共同で最優秀賞 1 句と優秀賞 10 句を選定した。最優秀賞には國本昌秀さんが詠まれた「大の字で仰ぐ大空雨燕」を選定した。これまで連盟を知らなかった層への周知にもつながり、野鳥や自然保護への関心を高める普及啓発事業として一定の成果を得ることができた。

2. 鳥類等の保全に向けた調査研究に関する事業

(1) 自主調査及び保護研究事業

① コアジサシの渡りルート解明に関する調査

コアジサシ研究センターとして以下の調査研究事業を行った。

絶滅危惧種コアジサシの渡りルートや中継地、越冬地を把握して保護に役立てることを目的として、平成 25 年度からジオロケータ(渡りルートを把握するための機器)をコアジサシに装着、平成 27 年度からはより詳細なデータを得るために GPS ロガーを装着してきた。令和 7 年度は新たに大阪湾において 2 羽に GPS ロガーを装着し、追跡を試みた。この調査は公益充実資金を活用して実施した。

② シマフクロウ保護のための活動(釧路支部)

国内希少野生動植物種に指定されているシマフクロウは北海道内で現在 100 つがい(環境省 2023)が確認されている。連盟では国が策定した「シマフクロウ保護増殖事業計画」に基づいて環境省・林野庁から種々の保護事業を請け負い、主に、シマフクロウのヒナへ足環を装着する標識調査、給餌池に生きた魚を放流する給餌作業、全道に現在 180 個ほど設置されている巣箱のメンテナンス・新規設置、国有林内の生息地の巡視などを行った。巣箱のメンテナンスには本部からも職員を派遣した。

③ 奄美大島における調査・研究活動

鹿児島県奄美大島において、NPO 法人奄美野鳥の会と共同で、絶滅危惧種オーストンオオアカゲラの保全のための調査研究を実施した。この活動は令和 3 年度から実施しており、令和 5 年度までの 3 年間はサントリー世界愛鳥基金から助成を受けて実施。令和 6 年度以降は公益充実資金を活用して行っている。令和 7 年度は奄美大島北部で 1 羽に GPS タグを装着し、農耕地における利用状況について事例を得ることができた。

④ アマミヤマシギの調査・研究活動

沖縄県沖縄島および伊平屋島、久米島において、アマミヤマシギの保全のための調査研究を実施した。アマミヤマシギの分布と移動生態について調査するもので、令和 3 年度から実施している。この活動は令和 3 年度から令和 5 年度は連盟がサントリー世界愛鳥基金から助成を受けて実施していたが、令和 6、7 年度は奄美野鳥の会が同基金から助成を受けて実施。連

盟は共同団体として参画した。令和4年度には、沖縄島でGPSタグを装着した3羽の内1羽が奄美大島に渡ったことが初めて確認されたが、その後、新しい知見は得られていなかった。しかし、令和7年度は3羽にGPSタグを装着することに成功し、内2羽が奄美大島に渡ったことが確認された。残り1羽は奄美大島へ向かう海上でのデータが最後となっており、令和8年3月31日現在、新たなデータは得られていない。今後、捕獲地である沖縄島に戻るデータが得られれば、渡りをしていることを示せるため、継続してモニタリングする。伊平屋島、久米島における分布調査については、観察記録があるものの、アマミヤマシギを確認することはできなかった。この活動に係る経費の一部は公益充実資金から支出した。

⑤ サシバの調査・研究活動

令和5年度から、NPO法人奄美野鳥の会、アジア猛禽類ネットワーク、(公財)日本自然保護協会、(公財)日本野鳥の会と共同で、サシバの渡りルートの全容を把握するため、令和5年度に奄美大島で11羽、令和6年度に同島で11羽、千葉県神崎町で4羽、計26羽のサシバへGPSタグを装着し追跡している。

令和7年度は、このプロジェクトを「サシバの渡りルート全容解明プロジェクト (Project for Unveiling Grey-faced Buzzard Migration)」とし、新たに与那国島で5羽、沖縄島で7羽、フィリピン共和国 (以下、フィリピン) ヌエバビスカヤ州で3羽の計15羽にGPSタグを装着して追跡した。また、これまでの結果を啓発するため、専用サイトを設けて公開した。
<https://gfb-migration-project.com/>

令和6年度の結果については、9月に札幌市で行われた日本鳥学会大会で口頭発表にて報告した。この調査はREADYFORのクラウドファンディングにおける支援及び公益充実資金を活用して実施した。

⑥ ワカケホンセイインコの調査・研究

外来種対策の一環として調査・研究を行っており、令和7年度は東京近郊に生息しているワカケホンセイインコの個体数を把握するため、ねぐらでのカウント調査を実施した。また、東京都市大学との共同で、巣箱を用いてムクドリとの繁殖環境の競合について調査を実施した。また、本種はオウム病を媒介する恐れがあることから東京農工大学と共同して糞のサンプリングを行い、オウム病の罹患率や病原体の種類について調査を実施した。

⑦ 本州におけるトキ野生復帰支援プロジェクト

サントリー世界愛鳥基金の助成を受け、本州におけるトキの放鳥、定着をめざす地域を支援する事業を実施した。2年目に当たる令和7年度には、石川県珠洲市、島根県出雲市、栃木県小山市などにおいて休耕田のビオトープ化などトキが好む生息環境の整備を行うとともに、珠洲市(11月29日)及び宮城県登米市(12月13日)において野生復帰にむけた地域の受け入れ態勢構築の支援のためのシンポジウムなどを開催した。

⑧ 2つ穴巣箱の実用新案登録と利用状況調査

2つ穴巣箱は、シジュウカラなどの樹洞営巣性鳥類によって好んで利用されることが分かったため、令和6年度に実用新案を取得している。令和7年度も、利用率や繁殖が成功しているかについてより明確な情報を得るため、継続して利用状況調査を行った。その結果、繁殖に

については明確な知見は得られなかったが、利用率についてはこれまでと同様に 2 つ穴巣箱が好んで使われることが示された。

⑨ 専門委員活動

鳥類保護に関心や経験を有し、指導力、実践力のある方や、鳥類を主とする観察会、または鳥類調査についての知識と経験を有する方に委嘱しており、機関誌などへの情報提供及び地域の愛鳥思想普及啓発活動と呼び掛けた。

⑩ 支部の調査活動

神奈川県支部、石川県支部としてツバメ調査に関わった。富山県支部として 12 月にハクチョウ一斉調査を行ったほか、富山県のガンカモ調査にも協力した。

(2) 受託事業

サントリー天然水の森の鳥類調査(サントリーホールディングス株式会社)、国指定天然記念物の十三崖のチョウゲンボウ繁殖地の調査(中野市)など、鳥類に関する調査を請け負い、実施した。

令和 7 年度 受託・請負事業一覧

区 分	事業名	担当	発注者
I 受 託 事 業	1.令和7年度全国野鳥保護のつどい記念式典等実施業務	本部	環境省
	2.令和7年度日中トキ生息保護協力業務	本部	環境省
	3.令和7年度シマフクロウ保護増殖事業（生息状況調査・給餌・巣箱設置等業務）	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	4.令和7年度シマフクロウの生息拡大のための生息状況等調査業務	釧路	環境省 北海道地方環境事務所
	5.令和7年度シマフクロウ放鳥候補地検討業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	6.令和7年度温根内ビジターセンター解説・管理業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	7.令和7年度塘路湖エコミュージアムセンター解説・管理業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	8.令和7年度釧路湿原国立公園アメリカミンク防除手法検討・試行業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	9.令和7年度希少野生動植物種保護管理事業（シマフクロウ）	釧路	林野庁 根釧東部森林管理署

	10.令和7年度希少野生動植物種保護管理事業 (シマフクロウ)	釧路	林野庁 根釧西部森林 管理署
	11.令和7年度希少野生生物保護管理対策事業 (シマフクロウ)	釧路	林野庁 十勝東部森林 管理署
	12.鳥獣生息分布調査	岡山	岡山県
	13愛鳥ポスターコンクール	岡山	岡山県
	14.令和7年度 国庫補助事業 十三崖のチョウ ゲンボウ 繁殖地天然記念物再生事業モニタ リング調査業務	本部	中野市
Ⅱ 請 負 事 業	1.サントリー天然水の森 鳥類調査	本部	サントリーホールディ ングス (株)
	2.志賀高原ホテルタキモトでの巣箱・水場メンテ ナンス	本部	志賀高原ホテルタキモ ト
	3.令和7年都の海域における洋上風力発電事業に 向けた生物基礎調査	本部	アジア航測 (株)
	4. アオバズク巣箱の制作・設置業務委託	本部	(公財) 東京都環境公 社
	5.令和7年度釧路湿原国立公園自然ふれあい活動 業務	釧路	釧路湿原国立公園連絡 協議会

3. 鳥類保護の国際協力に関する事業

(1) フィリピンにおける自然保護活動

フィリピンにおいて、NGO が実施しているサシバ等の保護活動に協力するため、平成 28 年度から中古双眼鏡の寄贈を、平成 29 年度からは経団連自然保護基金により調査や植樹活動を、令和 2 年度からはルソン島中部ヌエバビスカヤ州におけるサシバの密猟対策のための活動を実施している。令和 7 年度は、ミンダナオ島グランにおいて 10 月に再開されたラプターフェスティバルに出席して地域で保全を進める地元住民や子供達と交流を深めた。ここでは地域コミュニティが主体となってアカハラダカやサシバのカウントも実施している。また令和 8 年 3 月にはルソン島ヌエバビスカヤ州を訪れ、関係行政機関、大学等を訪問しサシバの調査への協力や密猟対策について情報共有の場を設けたほか、国際サシバサミットの開催地としての調整を行った。これらの活動の中で、令和 7 年度も一般の方からいただいた中古双眼鏡を寄贈した。

この活動は経団連自然保護基金と公益充実資金を活用して実施した。

(2) 国際サシバサミット

渡り鳥であるサシバを国際協力で守るため、日本の主要な自然保護団体が力を合わせてサミットを開催しており、連盟も参画している。第1回は令和元年5月に栃木県市貝町で開催され、第2回（令和3年10月沖縄県宮古島市）、第3回（令和5年10月台湾）、第4回（令和6年3月フィリピンサンチェスマラ）に続き、令和7年度は、10月24日から26日に奄美大島宇検村で第5回サミットが開催され、連盟本部も実行委員として参画した。

(3) 日中トキ協力事業

「日中共同トキ保護計画」に基づき、環境省の受託業務として、中国における野生のトキ個体群の保護・回復、生息環境の保護・整備、飼育下個体群の育成及び野生復帰を効果的に進めるとともに、日本の佐渡における野生復帰の取組みの参考とするために必要な調査、協力等の業務を目的とし、日中トキ生息保護協力に関する関連情報の収集を行ってきた。

4. 表彰に関する事業

(1) 令和7年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰

5月11日(日)に東京都の虎ノ門ヒルズで第79回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」を環境省共催により開催し、総裁賞を上田恵介氏に授与したほか、鳥類をはじめとする野生生物保護に功績があった功労者に対し、表彰を行った。

(2) 第59回全国野生生物保護活動発表大会

令和7年度は、全国の小・中・高等学校あわせて27校から応募があった。応募校には活動PR資料として動画または報告書の提出を求め、連盟ホームページで公開するとともに、一般投票を実施した。提出された活動PR資料をもとに、専門家および関係省庁による審査を行い、優秀と認められた9校に対し、環境大臣賞（3校）、文部科学大臣賞（2校）、林野庁長官賞（2校）、（公財）日本鳥類保護連盟会長賞（2校）を授与した。

11月27日（木）環境省において本大会を開催し、受賞校9校が活動内容や日頃の成果を発表した後、専門家および関係省庁を交えた意見交換を行った。学校における野生生物保護活動の普及啓発と情報共有を推進するとともに、次世代を担う子どもたちの自然保護意識の向上に努めた。

5. 連盟の組織運営の基盤となる事業

(1) 機関誌「私たちの自然」

発行回数：6回(2025年5・6月号 No.658～2026年3・4月号 No.663) ※隔月発行。

発行部数：1,700 部

配 布 先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局及び教育委員会等。

特に以下について留意し誌面づくりを行った。

・掲載内容：2025 年 5・6 月号から 11・12 月号までは「野鳥を知る・楽しむ」をテーマとし、環境や季節に応じた野鳥の楽しみ方や、レジン制作、スケッチなど多様な楽しみ方を取り上げた。2026 年 1・2 月号からは表紙を一新し、庭に野鳥を呼ぶ工夫などを紹介する「庭に小鳥を」と、連盟スタッフが実際にフィールドに出てさまざまなテーマに取り組む「フィールド探検をやってみた」を新たな柱として展開した。読者の野鳥や自然保護への関心を高めるとともに、連盟が行った最新の調査や寄付金の活用内容などを紹介し、連盟事業への理解促進と情報発信の充実に努めた。

- ・わかりやすい誌面づくり：中学生が読んでも理解できる程度の内容を心掛けた。
- ・寄付受け入れについて紹介し、読者の理解を得るように努めた。
- ・Facebook や X（旧 Twitter）、Youtube と連携した内容を盛り込むことで、SNS への誘導を試みた。
- ・会員の継続手続き負担軽減及び会費の滞納防止の観点から、機関紙にチラシを同封して Syncable のシステムを利用したクレジットカード支払いによる会員継続を促した。

(2) 支部会議

12 月 11 日(木)、本部と支部間及び支部相互間の協力・連携をさらに図っていくことを目的として、支部会議を対面とオンラインのハイブリッドで開催した。本部と支部間で活動内容を共有し、今後の取り組みに関する意見交換を行った。

(3) 支部交流会

10 月 18 日、19 日に石川県支部主催による北陸 3 県支部と本部の交流会を石川県羽咋市で実施した。1 日目は北陸 3 県支部および本部による事業内容の報告を行い、各支部の活動状況や課題について情報共有を図った。2 日目は、トキの放鳥予定地である邑知潟周辺で野鳥観察を実施し、生息する野鳥や放鳥地の環境についての理解を深めた。これらの交流を通じて、支部間および本部との連携強化を図り、法人運営体制の充実に努めた。

(4) 支部報

釧路支部は管轄する 2 か所のビジターセンターにおいて、月刊「温根内通信」（温根内ビジターセンター）および月刊「やちまなこ」（塘路湖エコミュージアムセンター）を発行した。神奈川県支部は「ふれんどリー」、富山県支部は「ライチョウ」、福井県支部は「こうのとりの」、石川県支部は「朱鷺」、京都支部は「うぐいす」を、それぞれ各支部会員向けに発行した。これらを通じて、各地域における愛鳥思想の普及啓発および自然保護活動に関する情報発

信を行った。

(5) 日本鳥類保護連盟活動推進ワーキンググループ

連盟の活動を推進していくためのワーキンググループの活動は令和 7 年度は行わなかった。

(6) 各種媒体を通じた広報

① ホームページ

ホームページのプラットフォームを Wix から WordPress へ移行し、メールサーバーと Web サーバー間の設定上の問題を解消することで、安定した情報発信体制を構築した。また、WordPress のプラグイン機能を活用し、法人会員専用ページや俳句募集ページなど、新たなページを作成し、公益目的事業に関する情報発信および会員サービスの充実に努めた。さらに、ホームページのセキュリティー体制の見直し、運営の安全性と業務効率化を推進した。

② Facebook・X(旧 Twitter)・Youtube

本部、支部の活動や鳥類に関する記事などを掲載し、普及啓発に努めた。

③ 連盟案内チラシ

ホームページの内容のエッセンスを紙媒体にし、連盟を知ってもらうためのツールとして活用した。

④ メーリングリスト

寄附者を対象としたメーリングリストで、連盟の活動や鳥に関わる豆知識などを配信した。

(7) 寄附を獲得するための活動

① 第 7 回シマフクロウ保護のためのステッカーデザインコンテスト

シマフクロウ保護活動への理解促進と寄付募集を目的として、ステッカーデザインコンテストを実施した。応募作品の中から、スナフキンさんの「コタンコロカムイ」を最優秀賞に選定し、そのデザインを用いたステッカーを制作した。

制作したステッカーは募金箱とともに温根内ビジターセンター等へ設置し、寄付をいただいた方へ配布した。本事業を通じて、シマフクロウをはじめとする希少野生生物保護への普及啓発に取り組んだ。寄付金は 16 万円ほどとなった。

② クラウドファンディングの実施

サシバを保全していくための調査・研究として、9 月 16 日から 11 月 7 日まで、「【第三弾】絶滅危惧種サシバの保全を皆の手で。渡りの全容解明への挑戦」をタイトルに READYFOR でクラウドファンディングを実施し、目標金額を超える 340 万円以上の支援金を集めることができた。

③ オンラインによる寄附

READYFOR、Syncable、Yahoo!ネット募金、Give One、Osuso に登録しオンラインでの寄付を募った。140 万円弱の寄付が寄せられた。

④ 遺贈寄付等

READYFOR の遺贈寄付運営サイトを活用しながら遺贈寄付を受け入れる体制を整えていることに加え、令和 6 年度には紺綬褒章公益団体認定制度の認可をとって、高額寄付者が受贈できる体制を整えた。令和 7 年度には 200 万円以上の寄付が寄せられた。

⑤ その他

普及啓発活動及び調査・研究事業を円滑に行うため、個人や企業を対象として使用済み切手、単箱事業等の各事業に対する寄附、中古双眼鏡(再掲)等物品を含む寄附を募った。

Ⅲ. 運営体制の充実を図るための取組

個人情報保護規程及び個人情報保護に関する基本方針を策定し、職員に周知している。

職員間の情報共有を図り、業務の円滑な進捗を管理するため、毎月定例会議を実施している。

適切な法人運営を実施するため、制度等の改正を的確に把握し、関係する規程類の整備を実施している。

調査研究業務の充実を図るため、調査研究室長の事務局長の併任を解除した。